

平川市の 財政状況について

市では、社会情勢の変化に対応しながら各施策を推進していく必要があることから、持続可能な行財政運営の実現のため、財政運営計画を策定しています。

今回、その内容についてお知らせします。

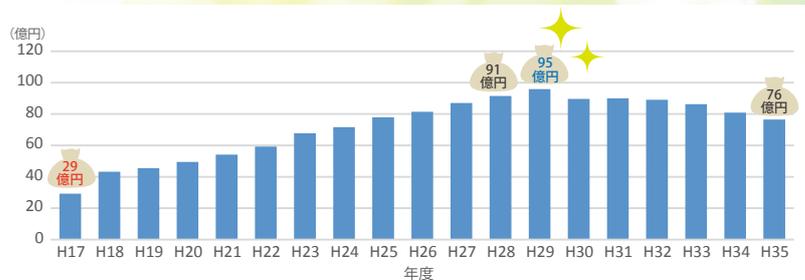
● 市債残高

市債とは市の借金のことです。平成17年度末に約236億円ありましたが、平成28年度末に約109億円まで減少しました。今後は、平賀東小学校および猿賀小学校の改築、本庁舎改築や新体育館建設などの大型事業が続くため、平成32年度までは増加する計画となっています。一時的に200億円を超す見通しですが、この償還(返済)に充てるためのお金が国から地方交付税という形で一定割合が交付されるため、市の実質的な負担は3割程度となります。



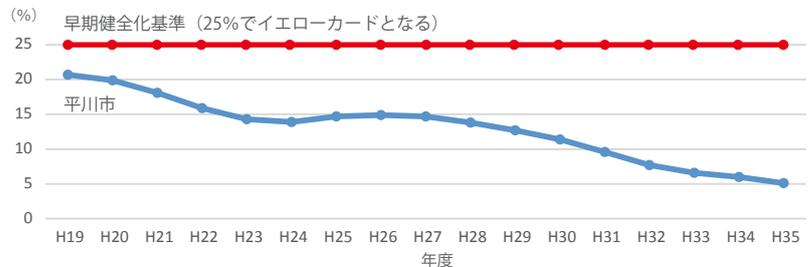
● 基金残高

基金とは市の貯金のことです。平成17年度末に約29億円でしたが、平成28年度末に約91億円まで増加しました。今後は、大型事業など様々な要因により減少する見込みとなっていますが、平成35年度末においても約76億円を保持することができる見通しとなっています。



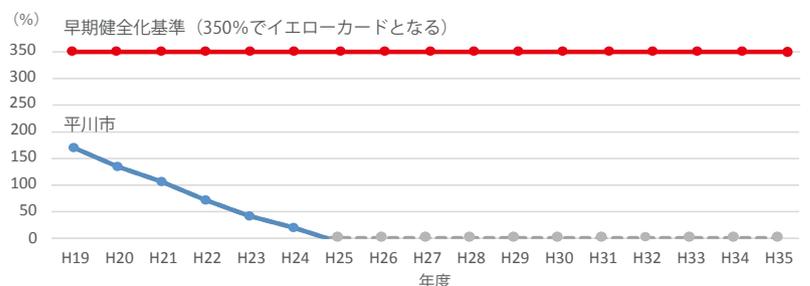
● 実質公債費比率

当市の標準的な収入額に対するローン返済の負担の大きさを表します。平成19年度は20.7%でしたが、平成28年度では13.8%に下がっています。今後も下がっていく計画となっています。



● 将来負担比率

将来負担すべき実質的な負債の大きさを表します。平成19年度に170.7%ありましたが、平成25年度以降は「-」(比率なし)、つまり、将来の負担はなしとなっています。これは、将来の負担が収入などを下回ったためです。



まとめ

現在計画されている事業が全て行われたとしても、市の財政は健全な状態を維持することができる見込まれています。市では、今後も、収入の確保に努めるとともに、行政改革を進め、経費削減に取り組んでいきます。